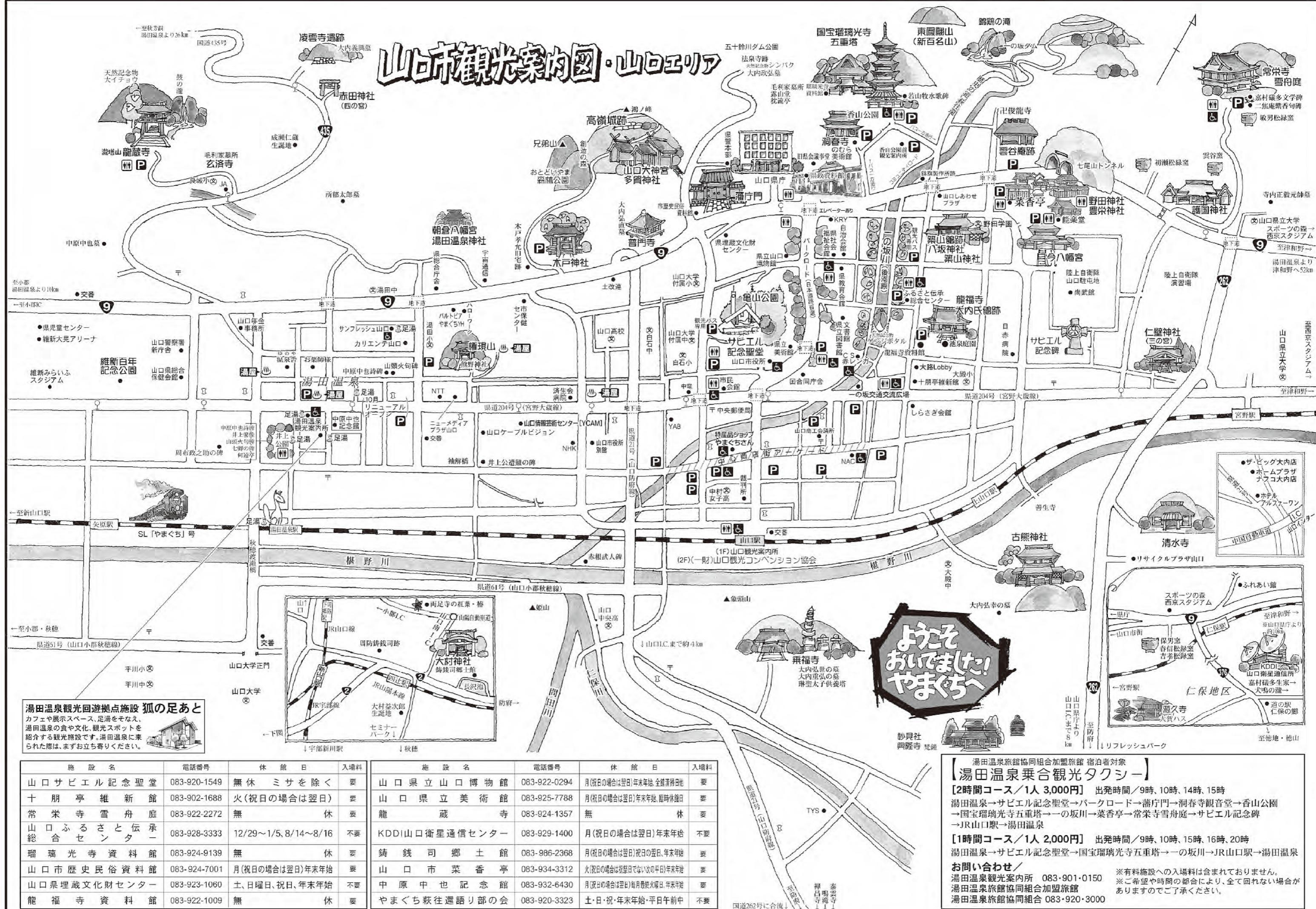
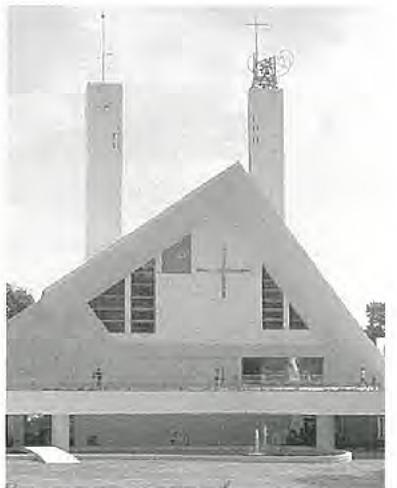


山口市観光案内図・山口エリア





▲サビエル記念聖堂

街の中央に龜に似た小高い丘があり、龜山という。頂上は公園になっており市街の展望が美しい。丘の中腹にサビエル記念聖堂がある。聖堂は、日本へ最初に渡ったキリスト教布教師フランシスコ・サビエルの偉業を記念して建てられた教会。[布教の寺跡（市内・金古曾）]にも記念碑が建てられている。]龜山公園の一角には、小・中学校時代を山口で過ごした国木田独歩の「山林に自由存す」の碑も見える。



▲亀山公園

明治維新時の毛利敬親公の銅像

▼西のお伊勢様 山口大神宮

大内義興によって創建され、江戸時代には「西のお伊勢さま」と呼ばれて、九州・西国各地から多くの参拝者が訪れた。内宮は平成7年秋焼失。平成12年再建。



(一財)山口観光コンベンション協会
TEL (083) 933-0088



▲瑠璃光寺五重塔（国宝）

瑠璃光寺五重塔は、足利幕府と戦い泉州堺に倒れた大内義弘の菩提を弔うために1442年に建てられた塔である。室町時代の建築としては装飾が少なく、その優美なシルエットは、全国でいちばん美しいと評価されている。また境内には禅宗様建築として有名な観音堂もある。いずれも国の重要文化財に指定されている。

▼毛利元就菩提寺 洞春寺

洞春寺は大内氏に代ってこの地を治めた毛利元就の菩提寺である。本堂は江戸時代に焼失したものの、山門は室町時代の特色をよく表わしている。また境内には禅宗様建築として有名な観音堂もある。いずれも国の重要文化財に指定されている。



▼香山公園

緑に覆われた古城岳の麓に、瑠璃光寺に隣接して、室町時代から明治維新にかけての歴史を語る香山公園がある。公園内にある「露山堂」は、幕末の藩主・毛利敬親公が家臣の身分を問わずここに招き、討幕の策を練った茶室であり、傍の枕流亭は薩長連合の密議を行った建物で、幕末歴史に登場する志士達の多くが訪れている。公園の一角には毛利敬親公の偉業を称えた勅撰銅碑や、幕末以後の歴代藩主の墓がありその参道の石畳は歩くと足音が石段に反響して妙音を発する「鳶張り石畳」としてよく知られている。



国・史跡名勝
▲常栄寺雪舟庭

雪舟は画僧として知られているが、築庭にも秀んでいたといわれ、各地に雪舟の手によったという名庭がある。中でもこの常栄寺の庭は有名である。文明年間(1469~86)中国から帰朝した雪舟は大内政弘の母の別邸を築庭した。背景は山林、北は枯滯、中央が無染池。周囲には立石を配し、破墨山水を立体化。もともと禅僧である彼らしい簡素で豪放な造りである。

この別邸は名を妙喜寺、妙寿寺と変り、明治に入り毛利隆元の法名から常栄寺となつた。



► 青舟旧居
雲谷庵跡

大内氏に招かれ山口に来た雪舟は此所に居を構え「雲谷庵」とし、多くの作品を画いた。永正3年この庵で没したと伝えられる。没後は、雲谷派として弟子がこの庵を継承した。



▼今八幡宮（国・重文）

創建は定かではないが、大内氏が山口に移る以前からの古い社といふ。現在の社殿は室町後期に建立されたものである。本殿・拝殿・楼門は結合しているが、このような様式は山口地方特有なもので珍しい。宝物に大内義隆が寄進した銅製の鰐口がある。重要文化財として訪れる人は多い。



▲筑山館跡

・八坂神社（国・重文）・筑山神社

西国の大雄・大内氏は1490年頃は益々富を蓄え、大内館の北隣に居館を建てた。そこには立派な筑山があつたので「筑山館」という。有名な連歌師の宗祇法師もその壮大さを「池は海こずえは夏の深山かな」と詠んでいる。八坂神社は弘世が京都から勧請した神社で「山口の祇園さま」と呼ばれ、「鳶の舞」が奉納される。その祭礼は市をあげて賑わう。



▲湯田温泉・井上公園

湯田温泉の一角にあるこの公園に、明治維新史を語る七卿の碑や何遠亭の跡、井上馨の銅像など、また放浪の俳人種田山頭火の句碑、中原中也の詩碑もある。温泉は山陽路随一の湯量を誇り、古来より白狐の伝説に彩られ約800年余の歴史をもつ。



▲中原中也記念館

中也は近代を代表する抒情詩人。彼にまつわる貴重な関係資料を集め、「中也の世界」により深く触れて頂くために、湯田温泉の中也の生誕地跡に建っている。

山口小史

西の京と謳われた大内氏時代の山口は、中世に文化的な幹を集め「西の京」と謳われる山街。南北朝時代中頃の一三六〇年、中國地方の豪族の一族で護職の大内氏の24代・弘世が居館を山口に移し、京都に模した街作りをして大きいに栄えた。大内氏の歴代当主は文武兼備の勇将も持つが続き、約二百年間大陸文化をもたらす文化往来の門口として貿易で莫大な富と権力を貯え、中世戦国時代の雄として君臨。特に30代大内義隆は、将軍足利義滿を捕りし一年間幕政を左右する頃は、將軍足利義滿を捕りし一年間幕政を左右する

る西國の大名であった。応仁の乱で疲弊した京を逃れて、多くの公卿文人たちが来出し、大内文化はますます栄え、その遺産は街中の隨所に今なお漂つ。31代義隆の頃には七州の守護大名として栄華はその極に達するが、一五五一年武断派の重臣・陶晴賢の謀反に依り、義隆は長門の大寧寺に敗走自刃。大内氏の正統は絶続する。以後山口の街は、幕末に討幕活動の拠点として毛利敬親公が藩廳を山口に移すまで、静かに息をひそめている。毛利敬親公が藩廳を山口に移すまで、静かに息をひそめている。

幕末、討幕運動の拠点としての山口。大内氏滅亡後、広島の毛利元就は下剋上の將・陶晴賢を討ち、大内氏に執つて代へる大名となるが、元就の嫡孫・毛利輝元の時、陶ケ原の戦いで反徳川の旗を掲げた為、家康によって伯領八ヶ国、百二十万石を没収され、周防・長門の防長二州三十六万石となり秋へ封づめられる。以来討幕新までの約三百七十年間に、長い試練の藩政時代のトンネルに入つていく。

嘉永六年（一八五三）ペリー来航により泰平の夢が破られ、新しい時代の創建に向け日本中が激動する。長州藩に於ては、吉田松陰をはじめその門下生たちが維新の志士たちとして活躍。文久三年（一八六三）藩主・毛利敬親は尊命を無視して山口に藩厅を移す。山口は俄然一新し防長政治の中心地、否、新日本建設の策源地として明治維新（一八六八）を達成させる、華やかにして激動の時代の脚光を浴びることになる。今までの歴史を色濃く残す美しい街である。